

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月6日(月)から10日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、6月の環境月間に環境保全に対する関心を高めるために、平成元年から毎年実施されているもので、名古屋市の一構成員として境界の外周清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、6月8日(水)の午後、高橋事務局長を始めと

した約120名の本部職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要なビラ等の撤去などを行い、汗を流しました。

なお、今年は名古屋市のごみ分別変更時期も重なり、ごみ分別改正内容の説明を行い、参加者側に分別意識を高め、積極的に取り組みました。



説明を受ける職員



奥村施設管理部長(左)と清掃作業をする高橋局長(右)

第68、69回防災アカデミーを開催

第68、69回防災アカデミーが、4月27日(水)、5月18日(水)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

第68回では、飛田 潤災害対策室教授により「揺れをはかるー東日本大震災の揺れと被害から考える振動モニタリング技術の将来ー」と題した講演が行われました。飛田教

授は、東日本大震災により被災した大学への緊急調査の報告を交え、建物の振動をモニタリングすることにより、建物が受けた被害を評価できる可能性があることなど具体例を提示しながら、地震を含めた様々な建物振動の計測に関する研究の話をしました。また、被災した建物の室内で多くの家具が散乱している写真を示し、家具をしっかり固定することの重要性を改めて指摘しました。125名の参加があり、講演後には活発な議論が行われました。

第69回では、藤原広行防災科学技術研究所総括主任研究員により「地震リスクに知で備えるー防災科研における地震災害軽減に向けた取り組みー」と題した講演が行われました。藤原主任研究員は、我が国の基盤的な地震動観測網の整備や、地震防災システムの構築に中心的な役割を担ってきた経験をもとに、地震災害の軽減に向けた様々な取り組みを紹介しました。携帯端末を地震計として使い、クラウドシステムでネットワーク化することにより専門家だけでなく多くの人が関わって地震観測網を構築する例や、東日本大震災の復興を支援するシステムなど最新の話題を沢山盛り込んでいました。136名の参加があり、盛況のうちに終了しました。



第68回防災アカデミーの様子